

## 資料紹介

### 穂積真六郎資料

植田 喜兵成智・辻大和・橋本陽・韓相賢

#### 一 受け入れ経緯

穂積真六郎資料は二〇一〇年九月にご遺族より学習院大学東洋文化研究所に寄贈されたものである。二〇一二年に当時、東洋文化研究所から研究プロジェクトを継承した同大学学長付国際研究交流オフィス（GEORE）において、同オフィスのリサーチアシスタントで、同大学人文科学研究科博士課程学生であった橋本陽らによって仮整理および中性紙封筒等への封入作業が行われ、二〇一四年度に東洋文化研究所に戻された。諸般の事情で公開が遅れたことにお詫び申し上げる。

資料旧蔵者の穂積真六郎（一八八九～一九七〇年）は、法学者でのちに東京帝国大学法科大学教授となる穂積陳重と、歌人の穂積歌子（実業家渋沢栄一の長女）の三男として生まれた。穂積真六郎は東京帝国大学法科大学を一九一三年に卒業後、朝鮮総督府に入り、一九四一年まで在職した。その間、一九三二年から一九四一年まで同府殖産局長を務めた。戦後は朝鮮引揚同胞世話会会長に就任し、一九四七年には参議院議員に当選した。同和

協会副会長などを経て一九五二年に友邦協会理事長に就任した。

穂積真六郎は友邦協会を組織後、積極的に資料を集めた。更に穂積の提案で、友邦協会から穂積を中心に近藤釵一・渋谷礼治・岸謙の四人と学生側の姜徳相・権寧旭・梶村秀樹・宮田節子の八人が中心メンバーとなり、一九五八年に「朝鮮近代史料研究会」を結成し、植民地時代の行政等に関わった関係者からの聞き取りを行った。その録音テープが学習院大学東洋文化研究所友邦文庫に現存し、二〇〇〇年以來、同研究所の研究プロジェクトにより文字起こし、校訂、刊行の作業が行われ、紀要『東洋文化研究』上に発表されている。なお穂積真六郎の自伝に『わが生涯を朝鮮に』があり、本寄贈資料にその執筆ノートが含まれている。

#### 〈参考文献〉

穂積真六郎『わが生涯を朝鮮に』友邦協会、一九七四年。

宮田節子「穂積真六郎先生「録音記録」(未公開資料)朝鮮総督府関係者録音記録一東洋文化研究所蔵 友邦協会・

中央日韓協会文庫 十五年戦争下の朝鮮統治」『東洋文化研究』二、二〇〇〇年。

宮田節子・姜徳相監修、李正勲・齊藤涼子・小志戸前宏茂・橋本陽編集、学習院大学東洋文化研究所編『友邦文

庫目録』勁草書房、二〇一一年。

## 二 資料の概要

資料の年代…一九三五年～一九八〇年

総量…内径 470×350×250 (mm) の中性紙箱3箱

言語…日本語

穂積真六郎資料は、これまでの調査のところ、総一三三点を数える。その資料群は大別すると、ノートと刊行物に分けることができる。資料の大部分は、穂積自身が収集、あるいは執筆したものと推測されるが、一部の資料には没後に刊行されたものがある。そうしたものは遺族が収集したものと考えられる。寄贈された後、仮目録が作成されており、その際に仮に資料番号が付されている。今般の資料整理では、資料番号と実物資料を対照確認する作業を行った。この仮の資料番号をあらためて請求番号とする。閲覧を請求する際には、この請求番号を基にして事前に申請していただきたい。なお引用する場合は、学習院大学東洋文化研究所蔵の穂積真六郎資料であることを明記してほしい。

(1) ノート／原稿箋

1  
103

穂積の自伝である『わが生涯を朝鮮に』の執筆ノートと推定されるノート・原稿箋一〇三点である。ノートの

一部にはタイトルの付いているものもあるが、多くはタイトルが確認できない。またノートに番号が振られており、資料を識別するためそれをタイトルとして示してある。さらに、タイトル・番号ともに付されていないもの場合は、単にタイトルを「ノート」としてある。そうした無題のノートに関しては、一般の整理で資料の内容を確認して、キーワードになるものを採取して〈主題・キーワード〉欄に示しておく。関心事項に沿って資料を検索する際には、この欄を使用していただきたい。

ノート・原稿箋に記された項目を確認すると、穂積の自伝に同一の見出しがあり、自伝ともほぼ同文のものが見られる。これらの資料は、自伝の草稿と考えてよいだろう。一方、自伝には採録されていないとみられる内容もノートにはある。たとえば、請求番号11「ノート11」には「かんにんの四字」というタイトルの付された文章が確認できる。狂言山本東次郎家の演じる「宗論」という演目についての随想、落語の「天災」（ノートには「かんにん」とある）とみられる演目から得られる教訓、そして母方の祖父である渋沢栄一が『論語』を重んじていたエピソードなどに言及する。穂積の人生観や家族観が見える資料ではあるが、朝鮮と直接的には関係が無く、そのため自伝には収録されなかったとみられる。今後、詳細な検討が必要となるだろう。

## (2) 刊行物

104  
〜  
134

刊行物については、形態から二種類に分けることができる。一つは、104「鉄鋼新聞」の切り抜きである。この資料は、戦前の鉄鋼業で活躍した実業家の三鬼隆（一八九二〜一九五二年）の伝記記事の一部で、当該の昭和

四六年（一九七二）二月九日と二月一〇日の記事は、三鬼が茂山の開発、清津の製鉄所に関わった際の内容を記述したものである。そこで穂積に言及されており、さらに「産業漫談」とタイトルの付いた穂積の原稿が一部転載されている。（一）のノート・原稿箋と同じ性格の資料ではないかと推測される。なお、この切り抜きは、穂積の死後の記事であり、遺族がスクラップしたものとみられる。

もう一つは、<sup>105</sup>134の書籍類である。そのうち<sup>105</sup>133は、友邦協会や各種の書店・団体から公刊されたものである。一方、<sup>134</sup>「亡き父母に贈られし弔詞並に追悼集」は、朝鮮総督府で政務総監を務めた田中武雄（一八九一～一九六六年）に対する弔辞や追悼文を、遺族と関係者が私的に編纂し、刊行したものとみられる。

請求記号	資料名	編者	発行・作成	発行年	発行年 (数式)	原本形 態	点数	発行地	頁数	主題・キーワード	備考
HOZUMI1	ノート 1	穂積真六郎					1			梁木；伊勢語で	1963年
HOZUMI2	ノート 2	穂積真六郎					1			自分なりの人生；英雄崇拜	
HOZUMI3	ノート 3	穂積真六郎					1			ひとりぼっち；一、誕生と死の感覚；交友；	
HOZUMI4	ノート 4	穂積真六郎					1			部島；家庭	
HOZUMI5	ノート 5	穂積真六郎					1			旅；伊勢語で	1959年
HOZUMI6	ノート 6	穂積真六郎					1			一、世界の推移は大概争があることに大きく変わって行く；一生を骨女で(御小言の恩)；(二)、母上の広い御心で(生まれで)；社会道徳	1967年
HOZUMI7	ノート 7	穂積真六郎					1			七十五歳；七十五年	1964年
HOZUMI8	ノート 8	穂積真六郎					1			仕合せな一生；一、父上の御小言；二、よき兄よき従兄の指針を受けて；英雄崇拜	
HOZUMI9	ノート 9	穂積真六郎					1			いのち；時の流れ	
HOZUMI10	ノート 10	穂積真六郎					1			御先祖のこと；昔々の御先祖様；源平時代の御先祖；徳川時代の御先祖；父上のこと；	1963年
HOZUMI11	ノート 11	穂積真六郎					1			伊勢語で	
HOZUMI12	ノート 12	穂積真六郎					1			伊勢語で	
HOZUMI13	ノート 13	穂積真六郎					1			京の光；明治維新と敗戦後の日本	
HOZUMI14	ノート 14	穂積真六郎					1			八十年の思い出；一、衆迎入相；一、若い者の顔から削出す実際に削りない次郎鬼；友邦協会を始める時の私の念願	
HOZUMI15	ノート 15	穂積真六郎					1			花の木の思出；菊；無雙花；ライラック；梅と櫻；朝暉の春	
HOZUMI16	ノート 16	穂積真六郎					1			小さな人生を一貫した持性	
HOZUMI17	ノート 17	穂積真六郎					1			疑い；若菜；旅；運動会；喧嘩	
HOZUMI18	ノート 18 思った儘	穂積真六郎					1			明治の御代；日露戦争後の日本	
HOZUMI19	ノート 19 動物編	穂積真六郎					1			動物編；1 雁；2 玉ころがしと御膳馬；3 狸；4 鱈；5 山姥；6 虎；7 鶴；8 白鳥；9 雄子；10 牛；11 羊；12 鼠と海豚；13 蛙と蛙；14 犬と猫	
HOZUMI20	ノート 20	穂積真六郎					1			自分なりの哲学	
HOZUMI21	ノート 21	穂積真六郎					1			明治時代の思出；一、蛍の光；風俗慣習の維持；唱歌の変遷；運動；東京の風物	
HOZUMI22	ノート 22	穂積真六郎					1			年寄りには解らない；国家に対する観念の変化；うそ	1962年
HOZUMI23	ノート 23	穂積真六郎					1			御両親；家の采因；人の運；役人で回りながら役入離れのした人生	
HOZUMI24	ノート 24	穂積真六郎					1			旅；伊勢語で	1958年？；チオク カツ錠フンケー 集録

HOZUMI25	ノート 25	穂積真六郎							日本も史上最高の進化を示した；一、正しい進みと党派の關係に就て；終戦後の日本	1967年
HOZUMI26	ノート 26	穂積真六郎		1					私の家は代々武士である；私の一生を貫く思想	
HOZUMI27	ノート 27	穂積真六郎		1					著漢；皇太子様御夫妻の外遊；友選；鶯の死；片足の文鳥	
HOZUMI28	ノート 28	穂積真六郎		1					大学一年の終わった夏休みのとき韓国への併合	1965年
HOZUMI29	ノート 29	穂積真六郎		1					七十六歳；七十六年	
HOZUMI30	ノート 30 No. 1	穂積真六郎		1					小さく産まれた利孝と五十年；帰朝後のこと；外事課長；滿洲事変	
HOZUMI31	ノート 31 御恩になった人々	穂積真六郎		1					希一さん；古市さん；人見次郎さん；貞ちやま	
HOZUMI32	ノート 32 思い出したまま 1961.8.5ヨリ	穂積真六郎		1					思い出したまま	1961年
HOZUMI33	ノート 33 思い出す儘 (I)	穂積真六郎		1					動物編；雁；鯉 (大正六年と十三年の語)；鱒 (小学中学昭和十年十六年の語)；山峠 (大正十四年)；虎	
HOZUMI34	ノート 34 思い出す儘 (II)	穂積真六郎		1					鶴；白鳥；雉子；鯉；真鯉	
HOZUMI35	ノート 36 楽しい思い出 (II)	穂積真六郎		1					我が家は楽しい；御母様；東京の町々	
HOZUMI36	ノート 37	穂積真六郎		1					私の明治；初めてのシヨック；初めての非難感；東通八相；兵役義務と私；明治の学校	
HOZUMI37	ノート 38	穂積真六郎		1					静かに夜空を眺めて；初めの角力；水産；父；母；相撲	1961年
HOZUMI38	ノート 39	穂積真六郎		1					一、死の恐れ；一、命なりけり	
HOZUMI39	ノート 40	穂積真六郎		1					今と昔	
HOZUMI40	ノート 41	穂積真六郎		1					都鳥；トムアラワン；やせ我儘；貞兄さん；小鸟	
HOZUMI41	ノート 41	穂積真六郎		1					八十年の生涯；自分の性格と親の恩；学校の勉強と趣味；鼠の疑問；	1969年？ [42] を消して [41] とあり
HOZUMI42	ノート 42 別冊	穂積真六郎		1					金関係の内容メモ	[43] を消して [42] とあり
HOZUMI43	ノート No.1 世話会と古市さんの思い出			1					終戦迄の私；世話会の集成；世話会の進展；年賀生活；スロウショー；懐疑性；知人の死	

HOZUMI44	ノート No.2 外事課の思い出し								外事課：間島と私	
HOZUMI45	ノート No.3 朝鮮併合に対する 思い			1						
HOZUMI46	原稿箋 No.5			1					工業邊陲	
HOZUMI47	原稿箋 No.6			1					一、産業経済調査会以前：一、殖産局長室の第一日；内地産業誘致より生ずる内地との相殺；セメント統制に関する相殺	
HOZUMI48	原稿箋 No.7 工業邊陲 (1)			1					一、農林局を殖産局より分離；一、朝鮮のこれ等産業の素質と発展性；朝鮮諸産業の急激な進展；工業不産業の発展；工業の統制；朝鮮工業の隆昌時代の工業の進め方；工業の実際のすみ；内地工業進出の状況；繊維工業の進出	ハガキ1枚挟み込み
HOZUMI49	原稿箋 No.8 ノート No.9 外事課邊陲	徳貞真六郎		1					友相協会を始める迄	
HOZUMI50	ノート No.10 韓国人の民族性 に関する日本人 の認識に関する 問題			1					世間評から「はずれな」一生；一、韓国人の民族性に関する日本人の認識に関する問題	
HOZUMI52	ノート No.11			1					はしがき；産業勃興の気運；セメント；無烟炭合同；三砂と戦艦	セロテープ
HOZUMI53	ノート No.12			1					三砂産炭の統括；産金監理；殖産局の拡大と陣容；水産業の進展；鉄山と溶鉱炉	
HOZUMI54	ノート No.13			1					セメント；無烟炭合同；茂山と清津	
HOZUMI55	ノート No.14			1					昭和四年；昭和五年	
HOZUMI56	ノート No.15			1					工業；殖産局に移る時期の語；セメント統制問題；セメント会社の設立；総額	
HOZUMI57	ノート No.16			1					朝鮮に対する古来からの観方	
HOZUMI58	ノート No.17			1					殖産局長就任；局長室での最初の思い；局長室の展望（続き）；セメント統制；	
HOZUMI59	ノート No.18			1					茂山と清津の統括；清津製鉄所の建設；工業（並に金鉄以外の諸動物）；	
HOZUMI60	ノート No.19 洋行から選んで 一、外事課時代 （思い出しの選定）			1					経歴の年表；外事課長；外事課；間島と集団農村；外事課本来の事務	
HOZUMI61	ノート No.20			1					疑獄事件	





HOZUNH108	太平洋戦下の朝鮮 (2) (朝鮮総督府予算「公文書関係重要文書」関係重要文書修編)	近藤鏡一 (編)	財団法人 友邦協会 朝鮮史料編纂会	昭和 38	1963	単行書	1	東京	202		
HOZUNH109	太平洋戦下の朝鮮 (4) (朝鮮総督府予算「食糧」関係重要文書」関係重要文書修編)	近藤鏡一 (編)	財団法人 友邦協会 朝鮮史料編纂会	昭和 38	1963	単行書	1	東京	186		
HOZUNH110	財政・金融政策から見た朝鮮統治とその終局	水田直昌・土屋喬雄 (編)	財団法人 友邦協会 朝鮮史料編纂会	昭和 37	1962	単行書	1	東京	164	p.100～p.101の間に抜きこまれた写真あり	
HOZUNH111	昭和 22 年 人口動態統計 (第 7 分冊) 第 12 表 厚生大臣官房統計調査部 昭和 24 年前行	厚生大臣官房統計調査部	厚生大臣官房統計調査部	昭和 24 年	1949	定期 刊行物	1	東京	208		
HOZUNH112	韓米文化の後栄 (上巻)	金正柱 (編)	韓国資料研究所 発所	昭和 37	1962	単行書	1	東京	192	護国真 1 枚が抜き込み	
HOZUNH113	韓米文化の後栄 (中巻)	金正柱 (編)	韓国資料研究所 発所	昭和 37	1962	単行書	1	東京	223	護国真六部宛に護国真 1 枚が抜き込み	
HOZUNH114	朝鮮常識問答 (朝鮮文化の現場書 (訳))	崔南善 (著)・相場清 (訳)	宗高書房	昭和 40 年	1965	単行書	1	東京	340		
HOZUNH115	万才聖徳事件 (三一運動) (1)	近藤鏡一 (編)	財団法人 友邦協会 朝鮮史料編纂会	昭和 39 年	1964	単行書	1	東京	256		

HOZUMI17	万才強權事件 (三一運動) (2)	近藤鏡一 (編)	財団法人 友邦協史料編 纂会	昭和39年	1964	単行書	1	東京	282	
HOZUMI18	(英文資料) 万 才強權事件 (三・ 一運動) (3)	近藤鏡一 (編)	財団法人 友邦協史料編 纂会	昭和39年	1964	単行書	1	東京	312	
HOZUMI19	管内経済の倫理	杉村廣蔵 (著)	大理書房	昭和18年	1943	単行書	1	東京	274	
HOZUMI20	朝鮮の神話と伝 説	申来敏 (著)	一杉書店	昭和18年	1943	単行書	1	東京	318	
HOZUMI21	植民地の獄	磯谷季次 (著)	郷土書房	昭和24年	1949	単行書	1	東京	120	本の巻頭、巻末に 中央朝鮮協会の印
HOZUMI22	北鮮の開拓十年	坪江由二 (編)	日刊労働通 信社	昭和31年	1956	単行書	1	東京	222	
HOZUMI23	待ちわびる心は 消えず	待ちわびる心は (牛)	財団法人 野口研究所	昭和31年	1956	単行書	1	東京	274	
HOZUMI24	朝鮮風土歌集	市山盛雄 (編)	真人社	昭和10年	1935	単行書	1	京城、 東京	437	
HOZUMI25	野研時報 第7 号 別冊 (工藤 宏規 業績とそ の人物)	財団法人 野口研 究所	財団法人 野口研究所	昭和33年	1958	定期刊 行物	1	東京	166	總編輯六郎宛に謹 呈状1枚が挟み込 み
HOZUMI26	資料選集 東洋 拓殖公社	水田直昌 (監守)	財団法人 友邦協会	昭和51年	1976	単行書	1	東京	422	友邦シリーズ第21 号 (昭和51年3月 25日発行) 財団法人 友邦協会「編纂 刊行書」通巻題3 号
HOZUMI27	落葉龍	水田直昌	五雲写植印 刷株式会社	昭和55年	1980	単行書	1	東京	556	
HOZUMI28	朝鮮半島の山 林—20世紀前 半の状況と文献 目録—	財団法人土井林学 振興会 (編)	財団法人 友邦協会	昭和49年	1974	単行書	1	東京	305	
HOZUMI29	わが外交の近況 (第三号)	外務省	外務省	昭和34年	1959	定期刊 行物	1	東京	232	
HOZUMI30	補訂 朝鮮農業 発展史 (朝鮮 農業三十年史) 発達篇	小早川九郎 (編著)	財団法人 友邦協会	昭和35年	1960	単行書	1	東京	610	

HOZUMI131	補訂 朝鮮農業 發達史 (朝鮮 農業三十年史) 政策篇	小早川九郎 (編著)	財団法人 友邦協会	昭和34年	1959	単行書	1	東京	682	
HOZUMI132	補訂 朝鮮農業 發達史 (朝鮮 農業三十年史) (付録) 資料篇	小早川九郎 (編著)	財団法人 友邦協会	昭和35年	1960	単行書	1	東京	123	
HOZUMI133	(朝鮮統治關係 重要文獻) 朝鮮 土地改良事業史	宮内逸夫 (編著)	財団法人 友邦協会	昭和35年	1960	単行書	1	東京	185	
HOZUMI134	亡き父母に贈る れびり手紙に込 められた 情					単行書	1	東京	356	田中武雄に對する 序辞・追悼文集

